

熊本県次世代モビリティ充電インフラ整備ビジョン

県内の充電器設置目標は550基以上で、そのうち急速充電器を110基以上とする。ビジョンの実現に向けて、県が設置予定の充電器を着実に設置し、さらに民間による充電器の整備を推進する。

観光におけるEV体験や充電器誘導サインの整備で 産官学による「EVのある熊本」を展開する



熊本城三の丸第二駐車場の看板のすぐ下に設置された急速充電器誘導サイン



① 充電用駐車スペースの地面にも充電器ロゴが貼られている
② EV観光試乗では、阿蘇連山の雄大な景色のなかでEVの魅力をたっぷりと体感できる
③ 試乗の受付場所となる観光案内所では電動スクーターを有料で貸し出している

今後の展望

効果的な試みの継続を

県の提案公募型事業として、「次世代モビリティを活用した実証実験」に採択された「EV観光試乗」は、EVの魅力をしっかりと伝えることができるユニークな取り組みだ。環境への配慮、観光への波及効果なども見込んで、今後も継続されることに期待したい。

現状

すでに目標数を突破

2013年6月末のEVの普及台数は475台で、目標台数を突破。同7月末時点の急速充電器は目標を大きく上回る23基に達し、普通充電器も126基と設置目標数をクリア。県による設置が半数近く、急速充電器9基、普通充電器が51基となっている。

目標

今年度中にEV・PHV300台

2013年度までのEV・PHVの普及目標台数は300台、電動バイク1000台。充電インフラの設置については、2013年度までに急速充電器10カ所、普通充電器を80カ所程度整備し、充電インフラ設置マップをホームページで公開する。

ホンダ、熊本県、崇城大学の3県官学によって進められてきたのが、「インターフェイスデザイン」の取り組みだ。EVや充電インフラ普及のための実証実験をプロモーションするのに欠かせないシンボルロゴのデザインを、崇城大学芸術学

部の原田研究室が一冊のデザイナーズとしてまとめ、画像データなども熊本県のホームページで提供。県内のホンダ研工業（以下ホンダ）と「次世代パーソナルモビリティの実証実験に関する包括協定」を締結。同社から貸与されたEV・PHVの実験車両を活用して、認知度向上を図る様々な取り組みが行われている。

みあそ村観光協会によって実施されている「EV観光試乗」では、ホンダのフィットEVを1日1組、4時間まで無料で試乗できる。試乗コースは3コースあり、一番人気は「水源と阿蘇山頂コース」で、80%の人人がこのコース

部の原田研究室が一冊のデザイナーズとしてまとめ、画像データなども熊本県のホームページで提供。県内のホンダ研工業（以下ホンダ）と「次世代パーソナルモビリティの実証実験に関する包括協定」を締結。同社から貸与されたEV・PHVの実験車両を活用して、認知度向上を図る様々な取り組みが行われている。

みあそ村観光協会によって実施されている「EV観光試乗」では、ホンダのフィットEVを1日1組、4時間まで無料で試乗できる。試乗コースは3コースあり、一番人気は「水源と阿蘇山頂コース」で、80%の人人がこのコース

EVによる観光の活性化も狙う
メーカーとの提携をベースに、充電器ロゴの作成や

を選んでいる。

もうひとつ県の提案公募型事業の実証実験として、熊本市内で進められているのが、EVによるカーシェアリングの計画だ。今回のインフラ整備ビジョンで充電器が設置されれば、計画は一気に活性化しそうである。

利用者の視点

ユーザー目線が好評

無料で乗れるEV観光試乗は、4時間という長時間の走行が楽しめるとあって、利用申し込みが抽選になるほど好評という。充電器のある場所へと誘導するロゴの作成など、利用者の立場に立った取り組みからも前向きな姿勢が感じられる。